

ルーマニアにおける社会体制の変革に伴う移 牧の変貌と環境変化

吉野(漆原), 和子 / URUSIBARA-YOSHINO, Kazuko

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

4

(発行年 / Year)

2013-05

様式 C-19

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 22 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22401006

研究課題名（和文） ルーマニアにおける社会体制の変革に伴う移牧の変貌と環境変化

研究課題名（英文） Change of Sheep Transhumance in South of East Europe

研究代表者

吉野 和子(漆原 和子) (URUSIBARA-YOSHINO KAZUKO)

法政大学・文学部・教授

研究者番号：00101329

研究成果の概要（和文）：東欧南部のヒツジの移牧の変化について、2003 以来の研究成果も踏まえて 2010 年から 2012 年度まで追った。ルーマニアでは、1989 年の社会主義崩壊後、土地荒廃が著しかったが、自由市場経済に移行後は、ヒツジの頭数が減少し、土地荒廃は 2005 年を境に緩和された。2007 年の EU 加盟後、冬の宿泊地へは、トラック、貨車の移動となった。夏の宿营地である山頂部へのヒツジの移牧頭数は激減した。山頂部では草地への樹木の侵入が著しくなり、今後は草地の維持管理が問われるということが、3 年間の研究期間の中で明らかになった。

研究成果の概要（英文）：A change in the transhumance of sheep in the southern part of East Europe has been studied by fiscal 2012, based on the own research results in the past. In Romania, land degradation was serious after undergoing the Socialist Regime in 1989. After shifting to free market system, numbers of heads of sheep decreased and accordingly, land degradation was mitigated particularly after 2005. After joining EU in 2007, sheep have been moving to the winter ranges by trucks or freight cars. The numbers of heads of sheep to move to the summer pasture on the mountain ridge areas in summer have been decreasing drastically. That invasion of trees to the grasslands on the mountain ridge areas have been observed in recent years and therefore, sustainable management of the grasslands should be important in the future, has become clear over the past three years.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,700,000円	1,410,000円	6,110,000円
2011年度	4,200,000円	1,260,000円	5,460,000円
2012年度	4,000,000円	1,200,000円	5,200,000円
年度			
年度			
総計	12,900,000円	3,870,000円	16,770,000円

研究分野：人文学 D

科研費の分科・細目：地理学

キーワード：ヒツジの移牧、社会体制の変革、植生の変化、ルーマニア、東欧南部、自然環境の変化

1. 研究開始当初の背景

2010 年度の研究開始時は、過去の研究代

表者による研究成果がある程度蓄積されていた。2003 年度にはヒツジの移牧の中心と

なる母村付近の土地荒廃が著しく、ロマ人口も多かったことがわかっている。社会主義崩壊後、ヒツジの移牧と自然環境のバランスが崩れていることを明らかにしようと考えた。

2. 研究の目的

(1) 土地荒廃とヒツジの頭数の変化を、社会主義崩壊後、EU加盟後とそれぞれの時代の比較を行うことにした。

(2) 東欧の中で、社会体制の変革と、EU加盟をほぼ同時に行った、スロベニア、ルーマニア、ブルガリアのヒツジの移牧の比較をすること。

(3) 今後のヒツジ産業の持続的な発展の方向を探る。

3. 研究の方法

(1) ルーマニアの土地荒廃地での年々の土壌侵食を計測

(2) 牧童への聞き取りと、社会主義時代とその後のヒツジの統計値の発掘

(3) 空中写真による植生の変化の比較

4. 研究成果

主な研究成果として明らかになったことは、次の通りである。

(1) 社会体制の変化によって、ヒツジ産業が土地荒廃に与える影響は大きい。

(2) EU基準の遵守の影響は大きく、ヒツジ産業による環境の悪化は阻止された。

(3) ヒツジ産業の冬の宿营地(平地)での大型化が進行しつつあり、夏の宿营地でのヒツジ頭数の減少が著しい。

(4) 近年の夏の宿营地の草地への樹木の侵入は著しい。草地を資源として考えるなら、樹木の侵入を抑えるための早い対処が望まれる。

論文は後述の通り 11 件執筆した。

このほかに、報告書(日本語 2 冊、欧文 2 冊)を発刊した。

最終年度に国際シンポジウムを実施した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

① URUSHIBARA-YOSHINO K., BALTEANU D. (2013): Ecological change caused by

Sheep Transhumance after the Socialistic Regime in the Cindrel Mountains, South Carpathians of Romania. Romanian Journal of Geography, 査読有 (in print)

② URUSHIBARA-YOSHINO K., SHIRASAKA S. (2013): Changes in Sheep Transhumance. in Romania. Romanian Journal of Geography, 査読有 (in print)

③ Shimizu Y. (2013): Herbaceous Plants as Cattle Food and Maintenance of Grassland in the South Carpathian Mountains in Romania. Romanian Journal of Geography, 査読有 (in print)

④ Mori K. (2013): Hydrochemical Characteristics of Inland Water in the Southern Carpathians in Central Romania. Romanian Journal of Geography, 査読有 (in print)

⑤ 漆原 和子 (2013): ピレネー山脈バスク地方(フランス)のヒツジの移牧. 法政大学文学部紀要, 査読無 (66), 31-39

⑥ 漆原 和子 (2012): ルーマニアの地理学. 地学雑誌 査読有 121(4), 735-742

⑦ 漆原 和子・アンドレイ クラニツ・羽田麻美・稲守 良介 (2011): スロベニア西部におけるヒツジの移牧の変遷. 法政大学文学部紀要, 査読無 63, 39-48.

⑧ 漆原 和子 (2011): ルーマニアにおける EU 加盟後のヒツジの移牧. 法政大学文学部紀要, 査読無 64, 37-49

⑨ 清水善和 (2011): ルーマニア南カルパチア山脈における植生の垂直分布. 地域学研究, 査読無 24, 7-25

⑩ 漆原 和子 (2010): ブルガリアにおける社会体制の変化に伴う移牧の変貌. 法政大学文学部紀要, 査読無 60, 97-111.

⑪ 漆原 和子・高瀬 伸悟 (2010): カルパチア山地における社会体制の変化に伴う移牧の変貌と植生の変化. 法政大学文学部紀要, 査読無 61, 109-123

[学会発表] (計5件)

- ① 漆原和子, 白坂蕃, Balteanu D. (2012) : ルーマニアにおける社会体制の変革に伴うヒツジの移牧の変化. 日本地理学会秋季学術大会, 2012年10月7日, 神戸大学鶴甲キャンパス (兵庫県).
- ② 漆原和子, 羽田麻美, 高瀬伸悟, 石黒敬介, 稲守良介 (2012) : ルーマニア, 南カルパチア山脈におけるヒツジの移牧と土壌侵食. 日本地理学会秋季学術大会, 2012年10月7日, 神戸大学鶴甲キャンパス (兵庫県).
- ③ 森 和紀 (2012) : 南カルパチア山脈北麓における陸水における陸水の水質特性—人間活動の影響に着目して—. 日本地理学会秋季学術大会, 2012年10月7日, 神戸大学鶴甲キャンパス (兵庫県).
- ④ 清水善和 (2012) : ルーマニア南カルパチア山脈における放牧用草地と森林限界付近の植生. 日本地理学会秋季学術大会, 2012年10月7日, 神戸大学鶴甲キャンパス (兵庫県).
- ⑤ MORI K., URUSHIBARA-YOSHINO K., BALUTEANU D. (2012) : Hydrochemical characteristics of inland waters in the Southern Carpathians with special reference to the influence of human activity. 32nd International Geographical Congress in Cologne, University of Cologne, Germany, 27th Aug. 2012.

[図書] (計4件)

- ① URUSHIBARA-YOSHINO Kazuko (2013) : Change of Sheep Transhumance in South of East Europe. 2010-2012 Grant-in Aid for scientific Research (B) supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Department of Geography, Hosei University, 105p
- ② 漆原和子 (2012) : ヒツジの移牧—東欧南部における社会体制の変革にともなう変貌—. 2010-2012年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 法政大学文学部地理学科, 169p.

③ 漆原和子 (2010) : 社会体制の変革に伴う移牧の変貌と土地荒廃. 2007-2009年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 法政大学文学部地理学科, 94p.

④ Urushibara-Yoshino, K. (2010) : Changing Social Conditions and their Impacts on Sheep Transhumance in Romania and Slovenia. 2007-2009 Grant-in Aid for scientific Research (B) supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Department of Geography, Hosei University, 108p.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

○取得状況 (計0件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

[その他]

ホームページ等
特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者
吉野 和子 (漆原 和子) (URUSHIBARA-YOSHINO KAZUKO)
法政大学・文学部・教授
研究者番号 : 00101329

(2) 研究分担者

研究者番号 :

(3) 連携研究者

森 和紀 (MORI KAZUKI)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：60024494

白坂 蕃 (SHIRASAKA SHIGERU)
帝京大学・経済学部・教授
研究者番号：40014790

清水 善和 (SHIMIZU YOSHIKAZU)
駒澤大学・総合教育研究部・教授
研究者番号：50178993

(4) 研究協力者

ダン・バルデアヌ (DAN BALTEANU)
ルーマニア科学アカデミー地理研究所・所
長